

地域ブランド“常磐もの”で水産業をPR



首都圏などでプロモーション事業を展開

○お問い合わせ
水産課 ☎22-7487

1 “常磐もの”を地域ブランド化

福島県や茨城県の沿岸海域は、寒流と暖流が交わる豊かな漁場となっており、水揚げされた水産物は長年、常磐ものと呼ばれ、首都圏などで高く評価されてきました。
今回、本市水産業の伝統、水揚げされる水産物とその加工品のおいしさ、生真面目な水産関係者の皆さんを“常磐もの”として地域ブランド化しました。



2 地域ブランドで魅力を発信

近年、本市の水揚げ量は回復傾向にあり、9月には試験操業海域が拡大するなど、本格的な漁業再開に向けた着実な進展が見られています。
市はこれまで、本市産水産物の風評払拭のため、首都圏でのPR活動などを行ってまいりましたが、今後さらに、本市水産業の早期復興を推進するため、地域ブランド“常磐もの”をキーワードに、その魅力やおいしさを発信します。

“常磐もの”定義

“常磐もの”とは、古くから海の恵みを大切にし、食文化として育ててきたいわき市の、水産物と水産関係者の総称です。



- J 寒流と暖流が交わる豊かな漁場。
- O そこで水揚げされる、滋味あふれる魚たち。
- B 美味しいままに届けるための設備や技術。
- A 工夫と伝統が生んだ、加工方法や食べ方。
- N 携わる人々のきまじめな心意気。

そうした環境の下で出荷されるいわきの水産物を、“常磐もの”と命名することで、品質と鮮度への責任と、たゆまぬ努力をこれまで以上に自らに課す。
それが「魚のプロが認めるおいしさ」を守り、さらに高めていくための私たちの決意です。

3 プロモーション事業を展開

市は“常磐もの”をPRするロゴマークを作成し、10月から首都圏などで、プロモーション事業を開始しました。
また、9月に設立した、市内水産関係者などで構成する「いわき市水産物地域ブランド化推進委員会」と連携を図りながら、キリングループの「復興応援キリン絆プロジェクト」の助成を活用した、各種プロモーション事業を展開し、本市水産物の地域ブランド化による、認知度向上や消費・販売拡大を進めていきます。



「常磐もの」ロゴマーク

これまでの取り組み

◆ ガイドブックを作成

“常磐もの”の主な水産物や水産加工品、おいしさの理由や浜のお母さんがお薦めするおいしい食べ方など、さまざまな情報を紹介。



◆ 10月に、首都圏でPR映像を放映

首都圏のイオン51店舗とJR京浜東北線の電車内で、「常磐ものに会いに行こう」がテーマの映像を放映。



◆ 10月2日、築地市場を表敬訪問



東京・築地市場の水産関係者を表敬訪問し、本市水産業の現状などを説明。

◆ 10月3日・4日、いわき大物産展でPR



小名浜港アクアマリンパーク内に設置された特設会場で、水産加工業者が“常磐もの”の試食販売を実施。

今後予定している取り組み

◆ 生活情報誌『ESSE』に記事掲載

11月7日発売号・12月1日発売号にタイアップ記事を掲載。

◆ 品川駅でPRイベントを開催

JR常磐線が直通運転している上野東京ライン沿線の同駅で、11月21日に「常磐ものフェア」を開催。

◆ オリジナルメニューの提供

12月ごろから、市内飲食店などで“常磐もの”を活用したオリジナルメニューを提供。

◆ 人材育成と販路拡大

事前セミナーで、水産加工業者などの営業力の向上を図った上で、販路の拡大を目指し、ビジネスマッチングイベント「第50回スーパーマーケット・トレードショー2016」（来年2月10日～12日、東京ビッグサイトで開催）に出展。

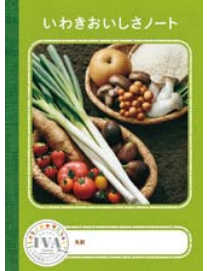
2015年度グッドデザイン賞を受賞



グッドデザイン賞は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。
今回、市内の2件の取り組みが評価され、同賞を受賞しました。

○1,000人の野菜大使がいる街へ。「いわき野菜アンバサダー」制度による、風評払拭のための情報源拡大の仕組み

受賞者 いわき市、(株)電通
概要 いわき野菜の特徴や安全性、生産方法、旬の時季、調理方法などに関する正しい知識を、無料のセミナーで学ぶことで、消費者などを「いわき野菜アンバサダー（野菜大使）」に認定。情報発信源となる方を、1,000人規模で増やしていくことによる社会問題（風評）解決の取り組み



セミナーの資料

○久之浜防災緑地について考えよう

受賞者 久之浜一小、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム

概要 久之浜の防災緑地について、まちの将来を担う、久之浜一小の児童らが「自分たちもまちづくりに関わりたい」と、6週間に及ぶワークショップを実施。2013年7月、久之浜・大久地区復興対策協議会にアイデアを発表し、それを受け、大人が子どもの思いやアイデアの具現化に動いた取り組み



ワークショップの記録